

開催にあたって

日本生命財団は昭和54年に人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資することを願って、日本生命により設立されました。

設立以来、助成の柱のひとつとして、「人間活動と環境保全との調和に関する研究」をテーマとして、環境問題に関する研究助成を行っております。毎年実施してきた研究助成は、これまでに**30回、累計で940件、助成総額24億200万円**に達しています。

当財団はこれらの研究がさらに進展し、研究者間の交流や情報交換が円滑に行われることを願い、併せてこのテーマに関心をもたれる方々の意見交換の場を提供するため、「助成研究ワークショップ」を開催いたしておりますが、このワークショップも今回で第24回目を迎えることとなりました。

今回のワークショップでは「**人間活動と環境保全との調和に関する研究－水、その循環の健全性と豊かな環境を求めて－**」を募集課題とする学際的総合研究助成に採択された研究チームからその研究成果をご報告いただきます。

大阪平野は優良な地下水貯存地帯です。しかし、被圧地下水の取水量増加に伴う減水圧の伝播による地盤沈下再発の可能性が指摘される一方で、利用が進んでいない不圧地下水では、過去の汚染が残留している上に、水圧上昇による地震時の液状化などの地盤災害が懸念されています。

今回発表いたします研究では、大阪平野の地下水盆全体を包括する地下水流動モデルを作成し、地下水による災害を予防するために、地下水の適正利用量を見積もりました。また、汚染地下水の浄化法を検討し、適正な利用法を提案します。さらに、湧水などの水環境に関する野外調査やビオトープを用いた水質浄化実験を、市民団体と協力して行うというものです。

地下水は、水の形態の中でも非常に私たちの生活と密接な関係にあり、今回のフィールドである大阪平野ばかりでなく、全国各地での「地下水問題」を解決するために、市民と一体になって同様の活動を展開していくための、第一歩となる研究発表といえます。

まず最初に、代表研究者の大阪市立大学大学院の益田教授から、研究の趣旨を説明いただき、次に3名の方々から「大阪平野の地下水環境」につきまして、それぞれ研究報告をしていただき、休憩の後に4名の方々より「地下水利用と環境教育」につきましての研究報告をしていただきます。その後、休憩を挟みまして、「地下水利用の理念」につきまして研究者・行政・教育者の方々にそれぞれの立場からご討議いただきたいと思います。

今回のワークショップの開催が「**自然環境と調和した社会の実現**」のために、私たちが今取り組むべきことをご理解いただき、これからの環境・地域・社会の再生・保全に取り組むための第一歩を踏み出すきっかけとなつていただくことを強く願っています。